社会科

教科領域研究テーマ
【よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成】



社会科

よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成

実　践　者　西田　剛志，江角　紀行
愛媛大学研究パートナー　鴛原　　進，川瀬久美子，張　　貴民

第１章　はじめに

将来の予測が困難な，複雑で変化が激しくグローバル化が進行する社会では，これまでの固有の組織の在り方を前提とした生き方だけでは十分に対応することは困難である。様々な情報やできごとを受け止め，主体的に判断しながら，自分を社会の中でどのように位置付け，これからのよりよい社会をどう描き，他者と一緒に生き，どのように課題を解決していくかが重要となる。

そこで，私たち社会科では，持続可能な社会を支える資質・能力を「よりよい社会や自分の姿を思い描く力」と捉え，その育成のために次の三点に重点を置き，実践を進めた。その際，全校体制で取り組んでいる「問答ゲーム」や各教科で取り組んでいる「論理的思考力・表現力」を発揮しながら，６Ｗ１Ｈを意識しつつ個人が論理的に考え分かりやすく意見を述べたり，生徒同士が互いに学び合ったりする活動を学習活動に位置付けて，より成果のある研究としたい。なお，社会科では「論理的に思考し表現する力」を「事象や問題の背景を熟考（時間的・空間的な視野を持って，多面的・多角的に考察すること）して自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確に表現する力」とした。

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実
(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実
(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

⇔

論理的な思考力・表現力

第２章　研究の実際

研究（その１）

社会の形成者の一人として未来を構想する社会科学習の展開
― 地理的分野　世界の諸地域「南アメリカ州」の実践より ―

（実践者）西田　剛志

１　研究テーマ設定の理由

将来の予測が困難な，複雑で変化が激しい今の時代に生きる生徒たちには，しっかりと社会や世界に向き合い，関わり合い，現在と未来に向けて，自らの人生を切り拓いていくことが求められている。

そこで生徒たちに，社会や世界の中での立ち位置を自覚させ，社会や世界の中で自ら問いを立て，多様な人々と「きょうどう」しながら問題解決を目指させたいと考えた。また，持続可能な社会の形成の観点からの考察を通して，社会的事象を身近に感じさせ，様々な問題の解決に向けて主体的に取り組ませたいと考えた。これらの活動を通して，「持続可能な社会」の形成者の一員として社会に参画し「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」に向けて歩み続けるた

めに必要な資質・能力を育成したいと考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

次の三つの「研究の内容及び方法」により，１年次より継続して研究を推進している。

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実
　生徒に社会や世界の中での立ち位置を自覚させ，社会的事象に主体的に向き合わせるために，資料の提示や問い，学習展開，ワークシートの工夫をする。
(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実
　広い視野から社会的事象を捉え，互いの社会的な見方や考え方を広げ深めさせるために，また，生徒の自尊感情を醸成させるために，生徒どうしの学びが生かされ合う学び合いの場を設ける。
(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫
　生徒の学びを「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう構想し続ける「実践力」につなげるために，パフォーマンス課題を適切に設け，生徒自身に思考力，判断力，表現力等の成長や変容を実感させる。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

本実践対象学級の生徒は，継続的に小集団で役割分担して課題に当たる問題解決的な学習に取り組んできた。その結果，生徒は，この学習展開が生徒の見方や考え方を広げるとともに，お互いの学びが生かされることにやりがいを感じられる活動であるとしていることが分かった。一方，「きょうどう」する他の学習者からの学びの有用性は強く感じているものの，自己の有用性については自信が持てていない生徒が多数いた。パフォーマンス課題について生徒は，一番印象に残っている学習活動であるとしている。その理由として「自分が調べたものなどを使い，持続可能な社会にするために自分で考えたことを生かすことができる」とする生徒が多くいた。

(2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

社会科では「論理的に思考し表現する力」を「事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力」と捉えている。これを，「きょうどう」の精神を発揮しながら問題解決的な学習に取り組む，「学び合い」の過程で育成することとした。その際，次の点に留意した。

ア　「熟考」させるための学習展開

問題解決的な学習の過程で小集団で役割分担して社会的事象や問題の背景を多面的・多角的に捉えさせるようにする。また，学習を通して見えてきた新たな学習問題に対して，現在の社会や世界の「持続可能性」や生徒の将来への提案の「実現可能性」などから考察させることにより空間的・時間的な視野を持って考察するよう問いやパフォーマンス課題を工夫する。

イ　「自分の意見や考え」を持たせるための役割分担や学習活動の「可視化」

「きょうどう」する学習者であると意識させて自尊感情の醸成につながるよう，小集団内で役割分担を明確にしたり，お互いの学びが生かされ合う姿の「可視化」をして実感させたりする。

ウ　「根拠を明確にして表現」させるための論点整理

自分の学級内や小集団内での役割や調査の成果を「可視化」して論点がはっきりするようにする。その際，主体的な私の「立ち位置」の自覚のもと，「よりよい社会」づくりを志向して考えさせる。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 概　要

単　元　世界の諸地域「南アメリカ州」（全８時間）

単元目標

○南アメリカ州の産業の変化と開発，それとともに見られるようになった環境問題の背景を理解することができる。

○開発と環境保全にどのように取り組めばよいのかを，持続可能な社会づくりの観点から多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現することができる。

[本質的な問い]

南アメリカ州の産業の変化と開発は，その地域や世界に何をもたらしたのだろう。また，南アメリカ州がこれからも持続的に成長していくためには，南アメリカ州，あるいは世界の国々やそこに住む人々は，開発や環境保全にどのように取り組めばよいのだろう。

[永続的な理解]

日本とは対せきする位置にあり，おおむね南半球に広がる南アメリカ州は，先住民とヨーロッパ系，アフリカ系，そしてそれぞれの混血，日本からの移民など，多様な民族や生活，文化が見られる州である。またかつては，農産物の輸出が中心であったが，豊富な鉱産資源やこれを基にして日本などの外国の技術を導入しながら工業化が進められ，モノカルチャー経済から脱した国も見られる。これらの産業の変化と開発は，南アメリカ州の発展につながるとともに世界の産業や生活を支えるものとなっている。しかしその一方では，熱帯林の伐採などの環境破壊により地球温暖化が進むと考えられるなど環境問題も起きており，私たちも無縁ではない。よりよい社会や世界を築くことを目指し，持続可能な社会や世界を形成していくためには，南アメリカ州が「開発か環境保全か」などの様々な問題の解決に向けて取り組む必要があるとともに，今そして将来の世代を念頭に，世界の国々や日本，そこに住む私たちも，自分の事として考え行動する必要がある。

評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①南アメリカ州の地域的な特色について，興味・関心を持って意欲的に追究しようとする。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 あなたは南アメリカ州の調査の結果，産業の変化と開発により経済成長してきた一方で環境問題が起こったことを知りました。開発か環境保全かが課題とされています。この課題を解決しながら，これからも南アメリカ州が持続的に成長していくためにはどうすればよいか，Ｂ５判１枚のレポートにまとめなさい。（評価目標の①②） ○ワークシート（評価目標の①②③） ○ペーパーテスト（評価目標の③④）
②南アメリカ州の産業の変化と開発，それとともに見られるようになった環境問題に対して，どのように環境保全に努めていけばよいのかを，持続可能性を踏まえながら多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現することができる。（思考・判断・表現）	
③学習問題やパフォーマンス課題の解決に向けて，収集した資料や協働学習者の学習成果，意見を適切に選択して，読み取ったり図表に整理したりすることができる。（資料活用）	
④南アメリカ州の産業の変化と開発，環境問題とその対策についての追究を通して南アメリカ州の地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。（知識・理解）	

指導計画（全８時間）

次	学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1	南アメリカ州を大まかに捉えよう。 ○多様な自然環境 ○多様な民族と人々の生活 ○大規模化する農業と発展する工業	◇多様な人種や民族で構成される南アメリカ州の地理的事象から人々の生活や文化に興味を持ち，南アメリカ州の地域的特色について追究しようとする。（関心・意欲） ◇南アメリカ州に関する地理的事象について資料を活用し，位置や広がりに留意しながら自分なりに解釈して白地図に整理し，表現している。（資料活用）	3
2	南アメリカ州の地域的特色を，開発と環境保全の視点から捉えよう。 ○産業の発展と開発にともなって起こった環境問題	◇南アメリカ州の開発と環境問題の背景について理解している。（知識・理解） ◇持続可能な南アメリカ州の発展の在り方について追究するために有用な情報を適切に選択し，級友に説明したり，級友から新	5

2	○持続可能性から見た南アメリカ州の開発と環境保全 パフォーマンス課題に取り組もう。	たな意見を得たりしながら，多面的・多角的に自分なりに判断して考察し，表現している。（思考･判断･表現） ◇問題解決に必要な情報を収集し，ワークシートに整理している。（資料活用） ◇パフォーマンス課題に意欲的に取り組み，収集した資料や情報を根拠に，多面的・多角的に考察している。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）	

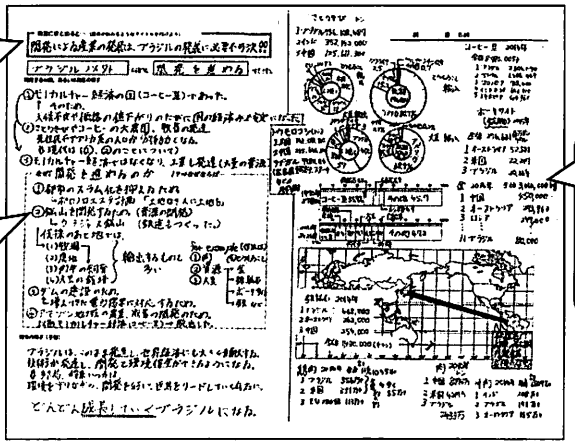
㈠ 本単元における指導と評価の工夫

(I) 問題解決的な学習の充実

南アメリカ州の地域的特色を大観させた後に設ける主題を，「持続可能な南アメリカ州の発展の在り方を考えよう」とし，アマゾンの開発と環境保全の在り方から追究させ，南アメリカ州の地域的特色を理解させることとした。追究成果をまとめさせるワークシートには，論理的に思考し表現させることをねらい，記述内容を工夫した。（**資料１**）

自分の考えを要約して説明させるために，調査結果から見いだした特色のある事象をもとに，簡潔にタイトルとしてまとめさせる。

因果関係を明確にして思考を整理し，多面的・多角的に，また，時間的な視野を持って社会的事象を捉えさせるために，「開発する以前，あるいは現在の様子」→「なぜ（視点）？⇒なぜなら……」→「将来の様子（予想）」の項目を立てる。



根拠となる資料を，グラフや主題図にまとめさせる。

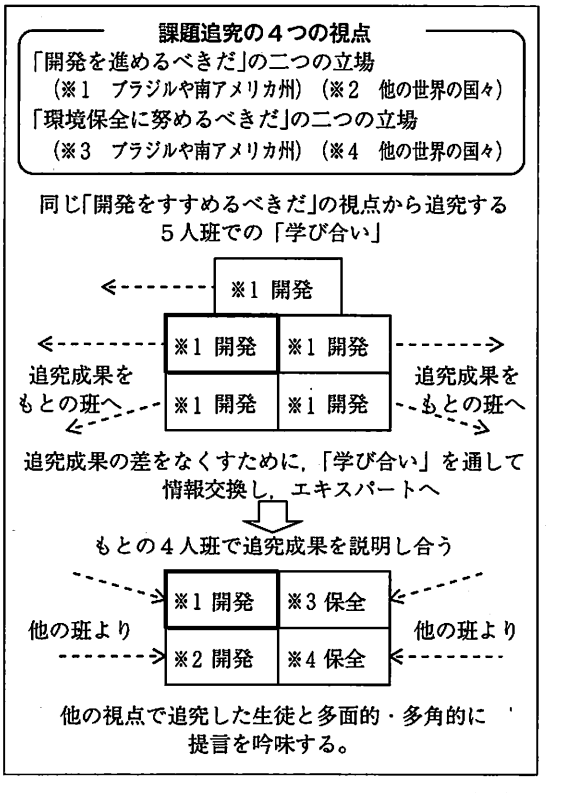
資料１　生徒の思考を整理して表現させるワークシート

(II) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

問題解決的な学習に，お互いが協働学習者であることを前提にして，小集団で取り組ませた。その際，開発か環境保全かを，４つの視点で分担して調査をさせた。その調査結果を持ち寄らせ，比較や関連付けをさせたり，自分の考えを根拠とともに説明させたりしながら，対話や議論を通じて多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるような場を設定した。（**資料２**）

(III) 資質・能力が育つ評価の工夫

「逆向き設計論」に基づくテンプレートを活用し，長期的な視野に立ち，生徒の学びを永続的な理解にたどりつかせるよう指導計画を立てた。(次頁)そして「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう志向し，構想し続ける「実践力」につなげるために，パフォーマンス課題に取り組ませた。また生徒自身に表記を見直しさせ，思考判断，表現の力等の成長や変容を実感させた。（次章ウ参照）



資料２　追究過程での小集団の動き（例）

研究主題を具現化するための指導計画

教科領域名	社会

(a) **研究テーマ（育成したい持続可能な社会を支える資質・能力）**
よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成

(b) **教科領域で育成すべき「論理的に思考し表現する力」**
事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力
※熟考・・・時間的・空間的な視野を持って，多面的・多角的に考察すること

単元名：世界の諸地域　南アメリカ州（１年 地理的分野）　　時数：全８時間

実施時期：平成29年　２月中旬

<table>
<tr><th colspan="2">第１段階：求められている結果</th></tr>
<tr><td colspan="2">本単元（１学期）における設定されている目標：　【G】goal
(a) 研究テーマに対して：
自分が社会の形成者の一人として「自分の立ち位置」の自覚のもと，「よりよい社会」づくりを志向する。
(b) 「論理的に思考し表現する力」に対して：
世界の諸地域の事象や抱える課題について，その背景を多面的・多角的に，また，空間的・時間的な視野を持って考察し，根拠を明確にして表現する。</td></tr>
<tr><td>理解：　【U】understanding
よりよい社会や世界を築くことを目指し，持続可能な社会や世界の成長のためには，各国が様々な問題の解決に向けて協力し合うことが必要であるとともに，世界の中の日本に住む私たちも，自分の事として考え行動する必要がある。</td><td>本質的な問い：　【Q】questions
諸地域ごとに抱える課題の解決に向けて，その地域の国々や，日本，日本に住む私たちは，どうすればよいのだろう。</td></tr>
<tr><td>生徒は次のことを知る　【K】knowledge
世界の諸地域の事象や抱える課題，その解決策には，日本や私たちにも何らかの関わりがあること。</td><td>生徒は次のことができるようになる　【S】skills(a)
(a)について
世界の諸地域の事象や抱える課題を，日本や私たちとの関わりから，その背景を探ったり，解決策を考えたりすることができるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒は次のことができるようになる　【S】skills(b)
(b)について
• 世界の諸地域の事象には，多面性があることに気付くことができる。
• 世界の諸地域の事象を白地図などに整理し，空間的に認識することができる。
• 世界の諸地域の抱える課題を，現在や将来など，時間的な視点から考察することができる。</td></tr>
<tr><th colspan="2">第２段階：評価のための証拠</th></tr>
<tr><td>(a)に対して　【T】tasks(a)
• 「持続的に成長していくために」
この問いに対して，その地域が抱える課題を明らかにして，その解決策を根拠を明確にして自分の考えを文章で表現しよう。</td><td>他の根拠　【OE】other evidence(a)
• 話合いや振り返りのワークシート
• 小集団活動の観察</td></tr>
<tr><td>(b)に対して　【T】tasks(b)
同上</td><td>他の根拠　【OE】other evidence(b)
• ワークシートの記述
• アンケート</td></tr>
<tr><th colspan="2">第３段階　学習計画</th></tr>
<tr><td>1</td><td>南アメリカ州を大まかに捉え，おおむね南半球の日本と対せきする場所に位置し，多様な自然環境が見られることに気付く。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>南アメリカ州が多様な民族で構成されている背景を，歴史や文化，人々の生活に着目して追究する。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>南アメリカ州の産業の発展の様子を，その変化と開発に着目して追究する。</td></tr>
<tr><td>4
5</td><td>南アメリカ州の産業の発展と開発に伴って起こった環境問題に気付き，その背景を「開発か，環境保全か」を，ブラジル・南アメリカ諸国，それ以外の世界の国々の視点から分担して追究し，南アメリカ州の地域的特色を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>南アメリカ州の環境問題に関する視点ごとの追究成果を共有する。</td></tr>
<tr><td>7
8</td><td>南アメリカ州の持続可能な発展の在り方について，追究成果を生かしながら情報交換して学習を深め，パフォーマンス課題に取り組み，学習を振り返る。</td></tr>
</table>

イ　指導計画２次第４時の指導(７／８時間)

㋐ 主　題　　持続可能な南アメリカ州の発展の在り方を考えよう

㋑ ねらい

○開発と環境保全の背景から南アメリカ州の地域的特色を理解する。

○持続可能性の観点から今後の南アメリカ州の発展について多面的・多角的に考察する。

㋒ 展　開

学習活動（形態）	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　南アメリカ州の産業の変化と開発の影響を振り返る。 （一斉）	○南アメリカ州の産業の変化と開発は，何をもたらしたのか振り返ろう。 ・ブラジルは鉱産資源の開発や工業化が進み，BRICSと呼ばれるまでになった。 ・熱帯林の伐採が進み，環境問題が起こった。	○社会的事象を多面的・多角的に捉えるよう意識させるために，経済成長と環境問題の両面から振り返らせた。
学習問題①　「アマゾンの開発を進めるべきだ」「環境保全に努めるべきだ」それぞれの立場からアピールしよう。		
2　アマゾンの開発と環境保全についての調査結果を共有する。 （一斉）	[開発を支持する南アメリカ州の立場] ・開発が進められたからこそ，ブラジル経済が成長したのだから，必要な行為である。 [開発を支持する南アメリカ州以外の立場] ・開発されなければ，日本や世界の鉱産資源や食料供給をまかなうことができない。 [環境保全を支持する南アメリカ州の立場] ・環境保全に努めなければ，自分たちの生活の場を守ることができない。 [環境保全を支持する南アメリカ州以外の立場] ・開発により地球温暖化を招くので環境保全に努めた方がよい。	○広い視野から南アメリカ州の地域的特色を捉えさせるために，四つの視点で分担して調査させておいた。 ◇担当した視点からの調査結果を基に，課題に対して根拠を明確にして説明している。 （ワークシート）  追究成果を根拠に学び合う姿
学習問題②　持続可能な南アメリカ州の発展の在り方について考えよう。		
3　今後の持続可能な南アメリカ州の発展の在り方について話し合う。 （小集団） ↓ （全体）	・日本などの資源や食料の輸入国は，消費を抑え，将来に残すように努める。 ・ブラジルはバイオ燃料の割合を増やし，熱帯林の破壊や開発行為を控え，環境保全に努める。 ・私たち消費者は，安いからといって外国産に頼っている今の生活を改め，地産地消に努める。	**○対話や議論を通じて多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるようにするために，協働学習者として分担して調査した結果を持ち寄らせ，自分の考え等を根拠を明確にして説明させた。**
学習問題③　みんなの提言を問い直そう。		
4　持続可能な社会や世界を築くために，あるべき姿を構想する。 （小集団） ↓ （全体）	○次の観点から，みんなの提案を問い直し，よりよいものにしよう。 （実現可能なのか　持続可能なのか 何か別の問題は起こらないのか その地域の実情に合っているのか） ・開発か環境保全かではなく，良い面も悪い面もあるのだから，両者のバランスをとった取組を考えるべきだ。 ・自分の事だけを考えるのではく，現地の状況を調べて本当に必要とされていることを探ったり，将来のことも考えたりして行動する必要がある。	**○社会の形成者の一員であることを自覚させるために，持続可能性の観点から自分や級友の意見を問い直させた。** ◇有用な情報を活用し，多面的・多角的に考察して，自分の考えを述べている。 （ワークシート・観察）

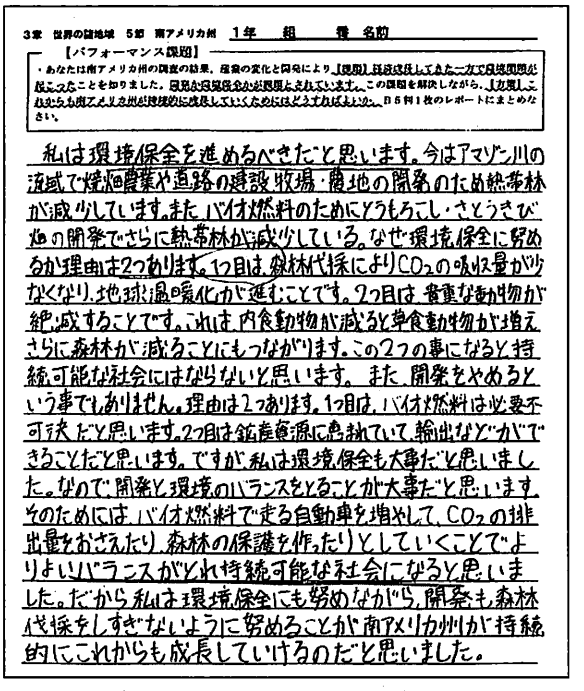
ウ　生徒の学びの実際と考察

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実

追究成果を記すワークシートやパフォーマンス課題に，生徒は多面的・多角的に考察し，予想される将来の様子を根拠を持って示すことができていた。これはワークシートに「過去」「現在」そして「将来」と，時間的な推移とともに，事象の背景や因果関係を整理して記述させたことの成果であると考える。

(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

小集団での話合いでは，ほとんどの生徒が自信を持って意見を述べていた。その際「私は」と前置きし，他者の意見との違いを示したり，逆に妥協点を見付けたりして話合いを進めていた。これは明確な役割分担のもと，移動を伴わせながら社会的事象の多面性を「可視化」したことで責任感や学習意欲が高まったためであると考える。また，学びの成果を「可視化」したことで，根拠となる資料を手に入れていることへの自信や，担当分野の専門家であるという自負が生まれたことによると考える。



3章　世界の諸地域　5節　南アメリカ州　1年　組　番　名前

【パフォーマンス課題】

・あなたは南アメリカ州の調査の結果，産業の変化と開発により【現状】民族成長してきた一方で環境問題が起こったことを知りました。現状が持続可能な社会が課題とされています。この課題を解決しながら，【方策】これからも南アメリカ州が持続的に成長していくためにはどうすればよいか。B5判1枚のレポートにまとめなさい。

私は環境保全を進めるべきだと思います。今はアマゾン川の流域で焼畑農業や道路の建設，牧場・農地の開発のため熱帯林が減少しています。また，バイオ燃料のためにとうもろこし・さとうきび畑の開発でさらに熱帯林が減少している。なぜ環境保全に努めるか理由は2つあります。1つ目は，森林が伐採によりCO2の吸収量が少なくなり，地球温暖化が進むことです。2つ目は，貴重な動物が絶滅することです。これは，肉食動物が減ると草食動物が増えさらに森林が減ることにもつながります。この2つの事になると持続可能な社会にはならないと思います。また，開発をやめるという事でもありません。理由は2つあります。1つ目は，バイオ燃料は必要不可欠だと思います。2つ目は鉱産資源に恵まれていて，輸出などができることだと思います。ですが，私は環境保全も大事だと思いました。なので，開発と環境のバランスをとることが大事だと思います。そのためには，バイオ燃料で走る自動車を増やして，CO2の排出量をおさえたり，森林の保護を作ったりしていくことでよりよいバランスがとれ持続可能な社会になると思いました。だから私は環境保全にも努めながら，開発も森林伐採をしすぎないように努めることが南アメリカ州が持続的にこれからも成長していけるのだと思いました。

資料５　パフォーマンス課題での思考と表現の実際

評価する観点　①関心・意欲・態度　②思考・判断・表現　③資料活用

評価　A	評価　B	評価　C
①（②具体的な課題を示し，③根拠を明確にして，②課題解決のための自分の意見を述べている。）	具体的な課題を示し，課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題が見いだせないまま，自分の意見を述べている。

資料６　パフォーマンス課題に対するルーブリック

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

パフォーマンス課題に対する評価結果は，評価Ａが69.7%，評価Ｂが30.3%，評価Ｃが０%であった。これは前述の研究の内容及び方法(Ⅰ)・(Ⅱ)を繰り返し実践したことにより，多くの生徒に事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力が身に付いたことによると考える。一方，30%あまりの生徒は，ワークシートへの追究成果やパフォーマンス課題に，十分には記述できていない。生徒に返却する際には，朱書して論理的な思考を促したり，他者と文章を読み合わさせてよりよい表現方法に気付かせたりしたが，個々の学力や習得の状況に応じた，きめ細かな指導が必要である。（**資料５・資料６**）

４　成果と課題

前述**３－ウ**から，本実践は事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力の育成に効果的であったと考える。しかし，すべての生徒の力の育成には不十分であったといえる。「自分の意見や考え」を持たせるための役割意識や自尊感情が醸成されたうえで論理的な思考や表現ができるよう，課題追究の方法や「学び合い」の場の設定，パフォーマンス課題の評価を通した支援の在り方などの見直しが必要である。

カリキュラムマネジメントを，本実践と学習時期や内容，問題解決的な学習を小集団で取り組ませる方法にも共通性があった技術・家庭科（家庭分野１年実施）「食生活をよりよく改善しよう」とで試み，授業計画段階から情報交換し合った。食料自給率や環境問題などを通して持続可能な社会を目指して，食生活で何ができるのかなど，社会科で学んだ知識を基に考えを深める姿が見られた。カリキュラムマネジメントの一例であり，今後も研究推進したいと考える。

研究（その2）

グローバルな視野で多面的・多角的に社会的事象を捉え，自分ごととして行動する力の育成

―地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」の実践より―

（実践者）江角　紀行

1　研究テーマ設定の理由

地球規模で進行する環境問題や不安定な世界情勢，日本の少子高齢化やそれに伴う社会保障費の増大等，現代社会は急速に変化している。次期学習指導要領では，そのような複雑で変化の激しい社会に生きる社会的存在としては，固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけではなく，様々な情報や出来事を受け止め，主体的に判断しながら，自分を社会の中でどのように位置付け，社会をどう描くかを考え，他者と一緒に生き，課題を解決していくための力が必要となる，と記載されている。

このような状況の中で，生徒にはよりよい未来や自分の姿を構想し，その実現に向けて国内のみならず地球規模で社会的事象を捉えさせたり，物事を多面的・多角的に吟味して見定めさせたりして，自分ごととして行動させることが重要である。また，課題解決に向けては，他者に自分の考えを根拠とともに論理的に説明しながら，対話や議論を通じて相手の考えを理解したり自分の考えを広げたりして，多様な人と協働できることが大切である。そして，これらの資質・能力を養うことが，「持続可能な社会」の担い手を育成する上で不可欠と考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

本年次は，次の「研究の内容及び方法」により，研究のテーマの具現化に迫ることとした。

(Ⅰ)　問題解決的な学習の充実
　自分ごととして主体的に社会的事象と向き合い，多面的・多角的に捉え，社会的な見方や考え方を身に付けることができるように，単元構成や資料の精選，問いの設定を工夫する。
(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実
　生徒がお互いに協働学習者であるという意識をしながら，自分の考えを広げたり深めたりさせるために，学習形態を工夫する。また，論理的に考え，根拠をもとに他者に分かりやすく伝えることができるように言語技術の支援を行う。
(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫
　「逆向き設計論」に基づく学習展開やパフォーマンス課題の活用により，生徒自身の能力の変容や成長を実感させる。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

本学級の生徒は，年度初めに実施した学習アンケートより社会科が「好き」と解答した生徒が70％おり，授業内で多くの生徒が活発に挙手し発言するなど社会科に対して意欲・関心が高い。また，重要語句の習得やグラフの読み取りなど，基礎･基本が身に付いている生徒が多い。しかし，前述のアンケートにおいて「社会で起こっている問題や社会的事象について学習する時に，色々な立場や視点から捉えようとしているか。」の項目では，「捉えている」と回答した生徒が43％，また持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目には，「行動したい」と回答した生徒が40％と，二つの項目についてはどちらも低い結果となった。このようなアンケートの結果や授業の様子から，本学級は，社会科への関心は高く，基礎・基本

の内容を身に付けているものの，社会的事象を多面的・多角的に捉えたり，社会や世界の問題を自分ごととして考え行動しようとしたりすることが不十分な生徒が多いことが分かる。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

社会科では，教科領域の論理的思考力・表現力を「事象や問題の背景を熟考（時間的・空間的な視野を持って多面的・多角的に考察する）して自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力」とし，これを発揮しながら単元の目標に迫れるように以下の２点を工夫しながら指導に当たりたい。

一つ目は，問題解決的な学習の充実である。単元のねらいに迫らせるために，単元を貫く学習問題を設定したり，世界各地の人々の生活や環境の多様性を理解させるために，その背景となっている自然的条件や社会的条件と関連付けて考察させる学習の場面を設定したりした。

二つ目は，論理的に思考し表現する学び合いの充実である。小集団活動が単なる話合い活動に留まらず，質の高い学び合いの場となるように，全校体制で取り組んでいる６Ｗ１Ｈ（いつ，どこで，誰が，なぜ，何が，どんな，何のために）を意識させ，言語活動の成果を働かせながら発表させた。また，ワークシートには，定型文や白地図を用いさせたり，グループの意見の発表時には思考の流れを視覚化するツールを活用させたりすることで，生徒が論理的に考え，根拠を基に他者に分かりやすく伝え発表できるように支援した。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ｱ) 概 要

単 元 世界各地の人々の生活と環境（全８時間）

単元目標

世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考え，他者に分かりやすく説明できる。また，世界各地の国や地域で起こっている生活の変化や問題に気付き，よりよい社会を実現するための方策を考える。

本質的な問い

世界各地の生活が変化しているのはなぜだろう。

永続的な理解

世界各地の人々の生活や環境の多様性に気付き，人々は自然的条件や社会的条件の影響を受けながら，その条件を生かしたり克服したりして生活していることを理解する。また，世界各地で起こっている生活の変化や問題について，自分ごととして捉え，主体的に方策を考えることが大切である。

評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①世界各地の生活と環境の多様性に関心を持ち，意欲的に追求しようとしている。 ②世界の国や地域で起こっている生活の変化や問題に気付き，よりよい社会を実現するための方策を考えている。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 みなさんは，松山市内の各中学校の代表者が集まり，これまで授業で学んだことや自分の考えを発表する「社会科スピーチコンテスト」に参加するため，県武道館に来ています。今回のテーマは，「世界各地の生活が変化しているのはなぜか」です。みなさんなら，どのようなスピーチをしますか。学習したこと（事実）を根拠として，スピーチ原稿を考えなさい。（評価目標の②③） ○ワークシート（評価目標の①③④⑤） ○ペーパーテスト（評価目標の⑤）
③世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考え，他者に分かりやすく説明できる。（思考・判断・表現）	
④世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する資料から，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。（資料活用）	
⑤世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。（知識・理解）	

パフォーマンス課題についてのルーブリック（スピーチ原稿について）

評価A	評価B	評価C
【学習した事実】を根拠として示し，テーマに合っている。	【学習した事実】を根拠として示しているが，テーマに合っていない。	【学習した事実】を根拠として示していない。

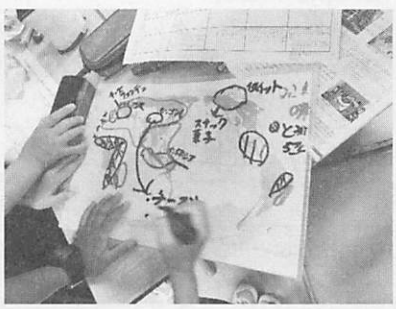
指導計画（全８時間）

次	学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1	○外国での生活や外国への旅行の体験者から現地の話を聞き，学習問題「世界中の人々は，どのように生活をしているのだろうか。」に対する考えを記入する。 ○世界のどこに，どのような気候が広がっているかまとめる。 ○グループごとに決められた地域について，班員で分担して衣食住などのカテゴリーを調べて発表し合ってまとめ，多面的に生活を理解する。 ○同じ気候帯に属する別の地域，同じカテゴリーで別の気候帯と比較して，「共通点」や「地域によって異なる点」を見い出す。 ○グループで追求した内容を全体の場で発表し合い，多角的に世界の生活や環境を捉え，その多様性に気付く。また，世界の生活の多様性を自然的条件と社会的条件を関連させて考察する。 ○学習を振り返り，学習問題について考察し，まとめる。	◇世界の気候区分とその特色を理解し，その知識を身に付けている。（知識・理解） ◇自分たちが担当する地域について，関心を持って追求し，その際に有用な資料を取捨選択して，活用することができる。（興味・関心／資料活用） ◇世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解し，人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察をしている。（知識・理解／思考・判断・表現）	6本時（その5）
2	○新たな学習問題「世界各地の国や地域で，どのような生活の変化や問題がおこっているのだろう」について世界の多様な現状を知る。 ○パフォーマンス課題について考察し，まとめる。	◇パフォーマンス課題を追求する際に，問題を自分ごととして捉え，意欲的に方策を考えている。（関心・意欲・態度）	2

(イ) 本単元における指導と評価の工夫

(I) 問題解決的な学習の充実

持続可能な社会に向けた実践力を育むための問題解決的な学習の充実を図った。まず，生徒に社会的事象を身近に感じさせ，主体的に追求させるために，導入において外国での生活経験のある生徒や教師の話を聞かせ，世界各地の生活の多様性について大まかに捉えさせた。そして，本単元のねらいに迫らせるための単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」を設定し，学習前の段階でこれまでの生活体験や既習事項を基に，予想を記入させこれからの学習への動機付けを図った。



生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察する姿

検証・深化の段階では，社会的事象を多面的・多角的に捉えさせるために，まずは「衣」「食」「住」「その他」といった生活の異なったカテゴリーから世界各地の生活の特色を追求させた。次に，同じ気候帯に属する別の地域との比較，さらに同じ生活のカテゴリーで別の気候帯と比較させることで，「共通点」や「異なる点」に気付かせ，社会的な見方や考え方を広げたり深めさせたりした。また，学級全体の場でグループごとに追求した成果を発表させ，グローバルな視点から世界各地の生活や環境の多様性を理解させた。発表の際には，白地図を活用させ，追求した成果などを効果的にまとめさせることで，「どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか」といっ

た地理的な見方を身に付けさせた。

本質的把握の段階では，「世界各地の生活に影響を与えているものは何だろう」という問いを設定し，社会的事象とそれを成り立たせている背景や要因に着目させ，世界各地の人々の生活の様子や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察させた。

学習終了後,再び単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」について記入をさせ，学習前の自分の記述と比較させることで，単元を通してどのように自己が変容したり成長したりすることができたか気付かせるようにした。



「衣」「食」「住」「その他」の多面的な視点から追求し発表

(Ⅱ)　「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

持続可能な社会を支えるために必要な資質や能力の一つが，多様な人々と協働していく力である。本実践では，そのような視点から学習問題を追求させる際に，ジグソー学習の手法で，お互いが協働学習者であるという意識をしながら，グループ内で一人ずつ「衣」「食」「住」「その他」というカテゴリーを担当させ，一つの国や地域を一緒に追求させ，まとめさせた。そして，小集団活動が単なる話合い活動に留まらず，質の高い学び合いの場となるように，論理的思考力や表現力を発揮させた。そのために，グループ内や全体の場での発表では，全校体制で取り組んでいる６Ｗ１Ｈ（いつ，どこで，誰が，なぜ，何が，どんな，何のために）を意識させながら，言語活動の成果を活用させつつ発言させた。また，各自やグループのまとめのワークシートでは，定型文や白地図を用いたり，話合いの際に思考の流れを視覚化するツールを用いたりすることで，生徒が論理的に考え，根拠を基に他者に分かりやすく伝えることができるように支援した。



各カテゴリーの専門家が「きょうどう」の精神を発揮し学び合う姿

私たちの班は、［　　］での生活を調べました。
ここは、（　　）帯（気候）に属していて、
【　　】という
特徴があり、次のような生活を送っています。

衣	食	住	他

論理的思考力や表現力の育成を目指した定型文の活用

(Ⅲ)　資質・能力が育つ評価の工夫

評価に際しては，社会的事象を自分ごととして捉え，よりよい社会や持続可能な社会の担い手の一人として行動する力を育成するために，パフォーマンス課題に取り組ませ，これまで学習してきた内容や身に付けてきた社会的な見方や考え方を生かしながら追求させた。そして，単なる表面的な知識に留まらせず，適切に活用させながら問題を解決する思考力や社会参画の態度の育ちを見取った。

イ　指導計画１次第５時の指導（５／８時間）

(ア)　主　題　世界の生活や環境の多様性を理解し，自然的条件と社会的条件を関連させて考察しよう。

(イ)　ねらい

○世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。

○世界各地の人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察している。

(ウ) 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時までの復習をする。 （一斉）	5	○これまでの学習を振り返ろう。 ・世界にある様々な気候帯の区分と特色を理解した。 ・自分の担当する地域の生活を多面的にまとめた。 ・同じ気候帯に属する他の地域の生活には，共通点と地域によって異なる点があった。	○既習内容を振り返らせ，本時の学習に生かせるように支援した。
2　グループでまとめた成果を発表する。 （小集団） ↓ （全体）	15	○グループでまとめた成果を分かりやすく発表しよう。 熱帯地域の生活と環境 乾燥帯地域の生活と環境 温帯地域の生活と環境 冷帯地域の生活と環境 高山地域の生活と環境	○論理的な表現ができるように，定型文や気候区分が記載してある世界地図を活用させた。 ◇世界各地の人々の生活や環境をグローバルな視野で捉え，その多様性を理解している。 （ワークシート）
教師の問い：世界各地の生活に影響を与えているものは何だろうか。			
3　教師の問いに対する答えを考え発表する。 （一斉）	15	・風通しの良い服は，気温や湿度が関係している。 ・アルパカの毛を使用した衣服や帽子は，動物が関係している。 ・羊や馬などから作ったヨーグルトは，人々の工夫や努力が関係している。 ・高床式の家は，熱帯と冷帯で見られるが気温や湿度が関係している。	○世界各地の生活に影響を与えているものを考えさせることで，様々な要素が諸事象を成り立たせることに気付かせた。 **○論理的で分かりやすく表現できるように，定型文を提示し発表させた。**
教師の問い：世界各地の生活に影響を与えているものを分類してみよう。			
4　自分なりに分類し発表する。 （一斉）	5	・気温と湿度は，同じグループになる。 ・動物は，どこのグループに入るのかな。 ・人々の工夫は，別のグループかな。	○多様な生活様式に影響を与えているものには，大きく自然的条件と社会的条件に分けられることに気付かせた。
5　学習を振り返り，学習問題を自分なりに追求する。 （個人）	10	・世界には，様々な自然環境や生活様式がある。 ・各地域に住む人々は，その地域の環境の影響を受けながら生活している。 ・多様な生活様式があり，その背景には自然的条件や社会的条件が関係している。	◇世界各地の人々の生活や変化を自然的条件や社会的条件と関連させて考察している。 （ワークシート） ○単元導入前の記述と比べ，学習後の変容や成長に気付かせた。

ウ　考　察

(I). **問題解決的な学習の充実**

○年度初めに実施した学習アンケートを学習終了後に再度実施した結果，「社会で起こっている問題や社会的事象について学習する時に，色々な立場や視点から捉えようとしているか」の項目では，「捉えている」と回答した生徒が43％から60％に，また「持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目には，「行動したい」と回答した生

徒が40%からと52%に上昇したことから，本学習活動が一定の効果があったと考える。

○単元を貫く学習問題「世界中の人々は，どのように生活しているのだろう」に対する学習前後の記述を比較すると，生徒Aのワークシートには，「北海道の二重窓や沖縄の防風林のように，世界の人々も気候に合わせて生活している。」から「気温や降水量といった気候だけに限らず，宗教や伝統など様々な自然的条件と社会的条件に影響されて生活している。」のように，社会的事象の背景を気候という一面的な捉えから多面的な捉えに変化しており，学習を通して新たな知識や見方や考え方を身に付けたことが分かった。

○ワークシートや話合い，全体発表の際に，白地図や世界の気候区分の世界地図を積極的に活用した結果，個人のまとめや全体の発表で生徒が意欲的に地図を利用してまとめ，諸事象を比較・関連して考えたり表現したりする姿が見られ，「どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか」といった地理的な見方の意識付けに効果的であったと考える。

(Ⅱ) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

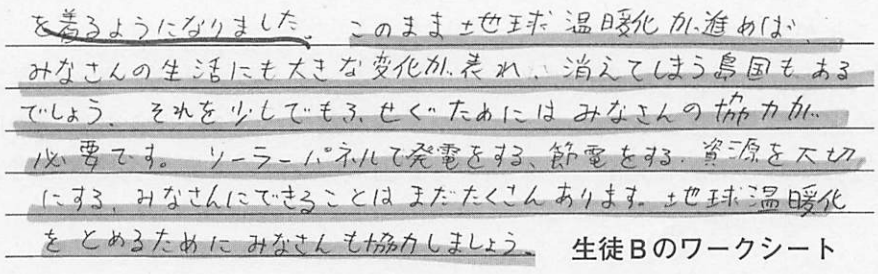
○自分の追求成果はグループや学級全体の追求にも必要であるため，ジグソー学習の手法を用いて，お互いが協働学習者であることを意識しながら追求させることで，自分ごととして学習問題を捉え，学習活動に取り組ませることができた。

○ワークシートや全体発表の際に，定型文を用いることで，生徒は６Ｗ１Ｈを意識しながら考えて記入し，話合いの際にもその根拠をもとに他者に分かりやすく伝えることを心掛けている様子が見られた。また，パフォーマンス課題では，多くの生徒がナンバリングを用いて記入しており，学校全体の問答ゲームや各教科での諸活動の成果も出ていると感じた。

(Ⅲ) 資質・能力が育つ評価の工夫

○「逆向き設計論」に基づく学習展開によりねらいに迫らせ，パフォーマンス課題の評価の結果，78名中Ａ評価は72名，Ｂ評価は６名，Ｃ評価は０名であり，多くの生徒が世界各地の人々の生活や環境の多様性に気が付き，その背景を多面的・多角的に捉え，人々の生活と関連付けて考察することができたと考える。

○パフォーマンス課題の記述に，生徒Ｂのように世界で起こっている諸問題に対して，自分たちの生活を見直し，改善のために行動を呼び掛ける生徒が78名中23名いた。生徒は社会的事象を単なる知識に留めず，自分ごととして捉え，自分の生活と結び付けたり，よりよい社会を築こうとしたりしており，持続可能な社会を支えるための必要な資質能力の育成にも効果があったと考える。


を考えるようになりました。このまま地球温暖化が進めば、みなさんの生活にも大きな変化が表れ、消えてしまう島国もあるでしょう。それを少しでもふせぐためにはみなさんの協力が必要です。ソーラーパネルで発電をする、節電をする、資源を大切にする、みなさんにできることはまだたくさんあります。地球温暖化をとめるためにみなさんも協力しましょう。

生徒Ｂのワークシート

４　成果と課題

「逆向き設計論」に基づき学習の展開を行った本実践は，パフォーマンス課題での評価状況や単元を貫く学習問題への授業前後の記述から，多くの生徒が社会的事象や背景を多面的・多角的に捉え，関連付けて理解することに一定の成果があったと考える。しかし，パフォーマンス課題の評価の結果で多くの生徒がＡ評価であったことから，評価基準の見直しが必要である。また，授業後の学習アンケートの「持続可能な社会を築くために，社会の一員として自分も行動したいと思うか」という項目で「行動したい」と回答した生徒は52%と低い。今後も，育てたい生徒像を明確にして単元構成や資料作成の工夫を行い，持続可能な社会を支える一員として必要な資質・能力の育成を図りたい。

第３章　おわりに

本年度，社会科では持続可能な社会を支える資質・能力を「よりよい自分や社会の姿を思い描く力」と捉え，その育成のために三点に重点を置き研究・実践を進めてきた。生徒の課題を追求する過程の姿やパフォーマンス課題の評価結果等より，本実践は一定の成果があったと考える。

(Ⅰ) 問題解決的な学習の充実

生徒に社会の中の立ち位置を自覚させ，主体的に社会的事象に向き合わせるために，資料の提示や問いの設定，学習展開，ワークシートの工夫を行った。その結果，多くの生徒は多様な見方・考え方を働かせ，課題に対して多面的・多角的に考察しながら追求することができた。

(Ⅱ) 「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

「きょうどう」する学習者であることを意識させるために役割分担をして追求させたり，立場や視点を可視化して事象の比較や関連付けの活動をさせたりした。その結果，多くの生徒が自信を持って活動し，対話や議論を通して自分の考えを広げ，根拠を基にして意見を述べることができるようになったり，自尊感情の醸成につながったりしたと考えられる。また，学校全体や各教科で取り組んでいる論理的な思考力や表現力を発揮しながら自分の考えを分かりやすく伝えようとする姿が見られた。

(Ⅲ) 資質・能力が育つ評価の工夫

「逆向き設計論」に基づく学習展開により長期的な視野でねらいに迫らせ，生徒の学びを永続的な理解にたどり着かせるように指導計画を立てた。また，「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう志向させ，学びを実践力につなげるためにパフォーマンス課題に取り組ませた。その結果，多くの生徒が事象や問題の背景を熟考し自分の考えを持ち，根拠を基に表現することができた。

しかし，すべての生徒にとって十分であったとはいえず，個々の学力や習得状況にあった，きめ細やかな支援が必要である。また，本実践のパフォーマンス課題の内容や難易度，評価基準が適切であったかを見直し，よりよい評価につなげることが大切だと考える。